

Solan Primary School
4th grade news letter

Venture Fourth

2023 Dec 19

雪や「こんこ」? 「こんこん」?

「ポプラの葉が全て落ちると根雪になる」という言い伝えを聞いたことがあるでしょうか。これは、私の地元札幌で教えてもらった言い伝えです。みんなは、「根雪」という言葉もなじみがないかもしれません。どんな意味なのか分からない人はぜひ調べてみてください。一昨日、瀬戸にも雪が降りましたね。その時に、私の息子が話したのです。「早く雪合戦したいなあ」と。でも、お姉ちゃんたちはそれを聞いて笑いながら言いました。「これは積もらないよ」と。そこから「根雪」の話になっていったわけですね。降り方一つ見ていても、気温の状況からも、積もる雪とそうでないものは見ていたらすぐに分かります。

さてみなさん。

ここで一つ質問です。

「雪」と聞いて、真っ先に浮かぶ曲はなんでしょう。

こう問われて、次の曲が頭に流れる人は結構多いはずです。

ゆきや こんこ あられや こんこ

とっても有名な歌い出しです。

えっ、「ゆきやこんこん」ではないの?と思った人もいるでしょう。

みなさんは、「こんこ」と歌っていますか。
それとも、「こんこん」と歌っていますか。
いったい、どちらが正解なのでしょう。
裏面を読む前にぜひ一度考えてみて下さい。

正解は・・・

実は、どちらも正解なのです。

恐らく、知識のある方ほど「えっ」となったはず。

「間違っって『こんこん』と歌う人もいるけど正しくは『こんこ』のはず…」
そう覚えている方もいるでしょう。

確かに、教科書にはちゃんと「こんこ」で載っています。

これは、明治44年から小学2年生の教科書に載り続けている歴史ある一曲なのです。

したがって、日本国民ならば全員が一度はこの曲を学んだはず。

なんなら、音楽之友社『しょうがくせいのおんがく 2』にも、次のような注意書きがあるほどです。

「こんこの ところは こんこんに ならない
ように きを つけて うたいましょう。」

じゃあ、「こんこん」は間違いじゃないか。

と、なりそうなところですが、実は違うのです。

なぜなら、「雪やこんこん あられやこんこん」と始まる歌が実際に存在するからです。実際の曲がこちらです。

『雪やこんこん』

雪やこんこん、あられやこんこん

もっとふれふれ、とけずにつもれ

つもった雪で、だるまや燈籠（とうろう）

こしらへましょー、お姉様



作曲は、かの有名な滝廉太郎です。

みなさんの思い浮かべている曲とはまるで違ったはずです。

こんなに似ている歌い出しの曲があることを、多くの方は知りません。

ちなみにこの曲に引っ張られたからこそ、先の唱歌の歌い間違いが起きたとの解釈もあるほどです。

それでは改めて、みんなのお馴染み「雪」の歌詞を見てみましょう。



この曲では、正しくは「こんこ」です。

「こんこん」と「こんこ」は違うのです。

滝廉太郎作曲の歌でいう「こんこん」は、雪が降り続く様子を指します。

「どんどん」とか「ずんずん」とかと同じ意味です。

一方、「こんこ」は違います。

漢字で言うと、「来ん来」。

これは、「雪よ、もっと来い来い」という意味です。

もっともっと降ってほしいという願いが込められた表現です。

たった一文字違うだけで、意味が随分変わるんですね。

ちなみに、先ほどの絵を見て分かる通り、みなさんがこの曲で真っ先に浮かべるであろう

雪やこんこ あられやこんこ

降っても降っても まだ降りやまぬ

犬は喜び 庭駈(か)けまわり、

猫は火燵(こたつ)で丸くなる。

は2番の歌詞です。

教科書には、こちらは載っておらず、省略されています。

それでは、一番の歌詞は何なのでしょう。

全国民が等しく習っているにもかかわらず、実は一番の歌詞を覚えている人はほとんどいません。

では、せっかくですから、予想してみましよう。

二番では、犬と猫が出てきます。

喜びいっぱい走り回る犬。

対して寒さからこたつへと逃れる猫。

そして、相変わらずの「来ん来」。

「降っても降ってもまだ降りやまない」雪に、「もっと来い来い」というわけですから、この詩の書き手がどれだけ雪を喜んでいるかが分かります。

この2番の歌詞をヒントに、1番の歌詞を予想してみてください。

歌詞には、何が出てくるのでしょうか。

生き物でしょうか。

植物でしょうか。

そして、その登場したものはどんな様子でしょうか。

予想した人から、続きを読んでみてください。

それでは、正解の発表です

唱歌「雪」の一番の歌詞は、次の通りです。

このまま、みんなが使っている国語の教科書77ページに載っています。

雪やこんこ 霰(あられ)やこんこ

降っては降っては ずんずん積もる

山も野原も 綿帽子(わたぼうし)かぶり

枯木(かれき)残らず 花が咲く

二番と同じく、雪はずっと降っていることが分かります。

面白いのは、後半の歌詞です。

例えば、こんな質問をしてみると、子どもたちは迷います。

山や野原がかぶっているのは、本物の帽子ですか。それとも違いますか。

今度授業で扱おうと思いますので、お時間あればぜひお子さんに尋ねてみて下さい。

まだ、国語では「綿帽子」という言葉は教えていません。

だからこそ、上の質問をしてみると、クリアにどんな世界を思い描いたかが掴めると思います。

この質問により、おおよそ次のことが分かります。

山、野原、綿、帽子などの単語の意味を理解しているか。

頭に、その情景が浮かんでいるか。

何かに例える表現（比喩）を、分かっているか。

来週くらいに授業で扱おうと思いますので、まだ勉強をしていない段階で
お子さんがどのくらいの世界を持っているのか確認してみてください。

その上で、最後の一行について尋ねてみると尚面白いです。

枯木(かれき)残らず 花が咲く

この詩が表現する情景とは何か。

これを、子どもたちに想像させると、それはそれはバラエティに富んだ世界が出てくるでしょう。

恐らく、教室は大混乱になるはずで。

こういう瞬間が、授業のだいご味であり、もっとも面白い瞬間です。

問うこととしては、次のことが考えられます。

「花が咲く」ということは、ここで春が来たんですね。

きっと、素直に聞く子ほど「うん」と答えるでしょう。

だって、「花が咲く」と書いてあるんですから。

まっすぐに意味を受け取る子たちは、これで花が咲いていない状態などは
思いもしないはずで。

でも、さっきの「わたぼうし」の謎に気づいた子なら、ひょっとしたら違う考えを持つかもしれません。

さらに、お馴染みの2番の歌詞の存在を知らせてあげると、「あれ、おかしいなあ」と思う子も出てくるでしょう。

いずれにしても、こうした「解釈が分かれる場面」は、知的好奇心が大きく揺さぶられるチャンスであり、国語の楽しさを存分に感じられるチャンスでもあります。

授業で聞いて「へーそうなんだ」で終わるよりも、前もってお母さんとしゃべっていて「あれ、どっちなんだろう？」と感じていると、実際の学びを得る場面での感動は大きく変わります。

今週はまだこの授業はしませんので、もしお時間あれば、お子さんに尋ねてみて下さい。

「綿帽子って、本物の帽子なのかな？」

「花が咲いてるから、もう春が来たのかな？」と。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

